

杉山英樹

（あきひら）

文藝批評論家。明治四十四年十一月八日栃木縣生れ、

昭和二十一年四月一日歿（二九一〇）。本名利一。昭和七年文化學院卒。労働運動に入り下獄。病を獲て假世所後、雑誌『文藝評論』、『文藝界』等、の評論を發表。十四年『槐』同人、翌年大井廣介、平野謙等と『現代文學』創刊。

譯著書、ゾオルテーニ書『人間と哲學』（譯、昭和十一年五月二十日六藝社）、コバルザツクの世界』（昭和十七年一月、二十日中央公論社）、コバルザツク藝術論等』（昭和十八年八月、二十日昭森社）、

『近代日本文學研究』

八人止文學作家論・上巻』（合著・

佐藤春夫、宇野浩二

監修編纂、昭和十八年九月五日小笠原館）

遺稿評論集『作家と獨斷』（昭和二十一年十月十五日中央公論社）等。